

| | |
|--------------------------|---|
| 許 可 番 号 | 倫-646 |
| 研 究 課 題 名 | 日本における真性多血症および本態性血小板血症患者の臨床像、生命予後およびイベントリスクに関する多施設後方視的研究 |
| 診 療 科 | 血液内科 |
| 研 究 責 任 者 | 小池 道明 |
| 資 料 ・ 情 報 の 管 理 責 任 者 | 順天堂大学医学研究科 血液内科学 小松 則夫 |
| 研究の目的と方法 | <p>フィラデルフィア染色体陰性骨髄増殖性腫 (myeloproliferative neoplasms : MPN) は骨髄造血幹細胞に異常が起こる疾患であり、代表的 3 疾患として、真性赤血球増加症 (polycythemia vera : PV)、本態性血小板血症 (essential thrombocythemia : ET)、原発性骨髄線維症 (primary myelofibrosis : PMF) が挙げられます。PV では赤血球の異常な増加、ET では血小板の異常な増加、PMF では骨髄の過剰な線維化を来し、これらの 3 疾患は、それぞれ相互に移行することがあり、また、二次性骨髄線維症 (secondary myelofibrosis : sMF) や急性白血病に移行することもあります。</p> <p>近年、これらの疾患を起こしている遺伝子変異(JAK2、MPL、CALR) が同定され、海外ではこうした遺伝子変異も組み込んだ予後因子スコアや治療方針が提唱されています。しかし、わが国においては、エビデンスが現時点で乏しい状況です。そこで、これらの病気を引き起こす遺伝子の変異解析が利用可能となった現在において、わが国での実臨床レベルにおける PV、ET の治療実態、治療成績を把握することで、治療対象、治療開始基準、管理目標値、至適な治療方法を明らかにするために、過去にさかのぼって調査することを計画しました。</p> |
| 利用、又は提供する 試料・情報の項目 | 診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、骨髄所見）、既往歴、自覚症状、合併症、治療歴、死亡の場合には死因 |
| 研 究 対 象 者 | 本研究の対象となる患者さんは、西暦 2005 年 4 月 1 日から西暦 2018 年 3 月 31 日の間に当院血液内科を初診し、PV または ET と診断された 20 歳以上の方です。なお、当院では 100 人を予定しております。 |
| 研 究 対 象 期 間 | 2005 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日の間 |

| | |
|---------------------|---|
| <p>利用する者の範囲</p> | <p>(1) 日本血液学会血液専門医が常勤医として勤務している施設および日本血液学会認定研修施設であること (2) 日本血液学会疫学調査「血液疾患登録」に登録されている施設</p> |
| <p>個人情報の取扱いについて</p> | <p>使用するデータは、個人情報特定されないよう匿名化に十分配慮して扱います。 研究成果が公表される場合にも、患者さんが特定できるような情報が公表されることはありません。</p> |
| <p>お問い合わせ先</p> | <p>該当する研究の対象となる患者さんで、ご自身の情報を利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。</p> <p>順天堂大学医学部附属静岡病院 血液内科科 電話：055-948-3111(代表) 研究責任者：小池 道明</p> |